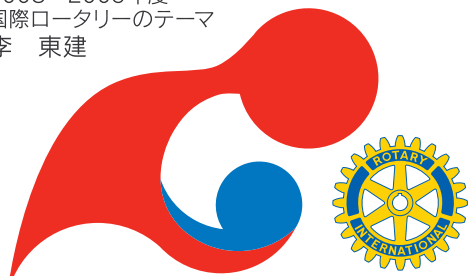


2008~2009年度
国際ロータリーのテーマ
李 東建



Make Dreams Real
夢をかたちに

会長/齋藤清藏 幹事/遠藤光一

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2008▶2009 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

出席と参加、親睦と奉仕の 意識を高め地域に奉仕

プログラム

●本日

来賓卓話「財政危機を乗り越える」
留萌市長 高橋 定敏様

会員誕生日

2月7日 高田 潔
2月10日 松村 孝二

ご夫人誕生日

2月11日 笠原 弘子
2月13日 高田美保子

●次週予定

-休 会-

No. 2361

第29回 2月4日

出席報告

前例会

会員総数.....43名
出免会員.....4名
出免出席.....1名
出席会員.....31名
出席率.....77.50%

前々会

第26回 1月14日

出席会員.....43名
メイクアップ.....0名
修正出席率.....100%

例会/毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F



会長報告

- 2009年国際交流新年会が2月6日(金)午後6時30分より産業会館にて開催されます。私が出席してまいります。



幹事報告

- 1) 1月22日RI日本事務局へ人頭分担金及び下期一般地区資金、特別地区資金、ポリオプラス募金を送金いたしました。
- 2) ロータリー米山記念奨学会より確定申告用領収書を受領しました。寄付をいただいた方へ本日配付いたします。
- 3) 砂川RCより2月例会のおしらせを受領しました。

ゲスト

北海道留萌支庁長 西田 俊夫様



3分間情報

会員研修委員会

田中会員

「ロータリー米山記念奨学会」

留萌ロータリークラブの会員皆様から、前期・後期で一人4,000円の普通寄付を年会費からいただいております。また昨年10月の米山月間では、35万円もの特別寄付のご協力をいただきました。5,000円以上の特別寄付をされた25名の方には1月末日までに、認定証の写しが付いた申告用領収証を、留萌ロータリークラブ宛に送付されて来ます。

12月までの寄付金は、前年同期と比べて8.43%増、約7,380万円増加となりました。普

通寄付金が0.01%減、普通寄付金は寄付行為に定められているように、全ロータリアンからクラブを通じて定期的にいただくご寄付です。特別寄付金が11.38%増と大幅な増加へと転じました。これは、米山記念奨学会始まって以来となる1億円もの大口寄付をいただいたためです。昨年12月半ば、名古屋名東RC会員の坂本精志氏より1億円のご寄付がありました。経営するホシザキ電機株式会社(本社:愛知県豊明市)の上場にあたり、坂本会員は株の売却益の一部を日頃から関心を寄せる団体に寄付。その一つに米山奨学会を選びました。坂本会員はこれまで米山奨学生のカウンセラーを二度務められたほか、博士課程に進学した学友を援助するなど、外国人留学生の支援に熱心に取り組んでこられました。創業者であり、ロータリアンであった父(故人)も、出身地の島根で進学困難な学生を支援していたことや、ご自身もロータリアンとして、勉学に勤しむ外国人留学生と関わる体験を得て、米山記念奨学事業への関心を深めたと言います。「米山は、経費も最小限に抑えているし、多くの方がボランティアで熱心に事業を行っている。また、資金を投機に回さず、地道に使っていることも好ましい。上場を機に、おすそ分けの気持ちで寄付しました」と坂本会員。本来は匿名で寄付したいと、今回も含めてこれまで表彰品はすべて辞退されていますが、「後続く人が出てほしい」との気持ちから、今回「ハイライトよねやま107号」の記事となりました。

ニコニコBOX

- ・順調に進んでおります 12月のガバナー月信に写真が載りました 齋藤会長
- ・麻雀大会に優勝しました 武井会員
- ・麻雀大会準優勝 中川さんもっと強くなってください 森(俊)会員
- ・麻雀大会1位です 串橋会員

前 回	502,500円
今 回	7,000円
累 計	509,500円

プログラム

「留萌の元気づくり」

北海道留萌支庁長 西田 俊夫 様

本日は留萌ロータリークラブの例会にお招きいただき、誠にありがとうございます。

聞く所によると、約半世紀の歴史と伝統があるクラブとのことで、大変光栄に存じます。皆様には日頃より様々な分野で社会奉仕活動にご尽力されており、この機会に改めて深く敬意を表し、感謝申し上げます。特に、皆様の活動理念として職業奉仕の観点から企業倫理を大変大切にされていると聞いており、色々な機会に子供達や若い方々に「職業観」や「倫理観」について説いておられる事は、若者が将来に希望を持ちづらい時代だけに、とても大切な事でありがたい事だと思っております。本日お話をさせていただくことも、地域に有為な人材を育てる人づくりという事がメインとなりますのでよろしくお願ひします。

私は道職員になって以来、道内各地を転々と勤務してまいりました。帯広を振り出しに、これまで根室、室蘭、美唄、旭川、その間に東京と、留萌で7ヶ所目となります。すべて初めて住む地域でありました。むかし若い頃、先輩から地方へ転勤する際に、よく聞かされた言葉がありました。「道職員の心得」みたいなもので、「三つに惚れろ」・「三惚れ」という言葉です。つまり、一つに仕事に惚れろ。二つに地域に惚れろ。三つ目に人に惚れろです。私は若い頃から今でも変わらず、この言葉を大切にしております。中でも三つ目の「人に惚れろ」で、地域の人に惚れないと、良い仕事が出来ないという事でもあります。どの地域にも必ず意欲的な方がおります。そうした人に惚れて、一緒に良い仕事をするというのが、道職員のおもしろさであり、やり甲斐でもあります。私は昨年4月に留萌に参りましたが、それまでお付き合いのあった方は高橋留萌市長と石塚道議だけでした。しかし今、こちらに来て色々な人に出会い、惚れて、お互いに共感し合い、今仕事をさせていただいております。

もう一つ「人」というキーワードで大切なことがあります、私の好きな言葉で「天の時は地の利に如かず。地の利は人の和に如かず。」という中国の諺があります。ご存知の通り、孟子の言葉です。色々な解釈があるかもしれませんが、私は「事を成すときは、人の和が最も大事である」と思っております。「人の和」、釈迦に説法のような話になりますが、強いリーダーの下で、目標を共有して皆で知恵を出し合い、人材を結集して物事を成し遂げる。これは皆さんの会社も役所も、あらゆる組織に通じる事ですが、地域にも当てはまると思います。地域はこれからどう生きていくのか、地域としてどう持続的な発展を図っていくのか。どんなに困難があろうとも、地域の人の和によって他力本願ではなく、自力で乗り越えていかなければならないと思っております。北海道全体もそうですが、留萌も今まさに何十年に一回の踏ん張りどころだと思います。留萌の歴史を振り返ると、大先輩の皆さん方は困難や壁を「人の和」によって一つひとつ乗り越えて、産業や街の基盤を発展させてきたのだと思います。留萌港の整備やニシン漁から水産加工への転換。大水害の克服などがありました。従って、これから重要な事は「これからの留萌をどうするのか」地域戦略を皆で共有し、「人の和」、気持ちを一つにして行動・実行することだと思います。

今北海道が生き残る道としての究極のテーマは、技術力と人材力の蓄積だと思います。食のポテンシャルを生かすと言う事。つまり、技術開発と人づくり、この二つが北海道の究極のテーマだと思っております。今、食の安全で話題になっておりますが、北海道が、日本の中で、また世界で戦える強みといえば、唯一安心安全で豊富な量の食糧です。ですから北海道の強みである食のポテンシャルを活かした技術開発と、人づくりが北海道の大戦略になるのではないかと思います。

さて、これからは本題の留萌の元気づくり、その戦略について考えてみたいと思います。私は、まず産業戦略を一番大切にしたいと思っております。産業をしっかりとしたものにする事に



よって、雇用が生まれ、そこに住み続けることが出来るという循環が可能になるからです。すなわち、民間中心の経済活動を活発にすることで、あえて言うならば「公務員のまち」からは新たな付加価値は生まれませんし、人は魅力に感じません。よそから人を呼び込む事も出来なんでしょう。目指すところは、時間はかかるけど新しい産業起こしです。失敗を恐れずに、新しいアイデアで一つひとつ起業化にチャレンジしていく事だと思います。今、国や道ではこうしたチャレンジを後押しする仕組みやファンドを十分に用意しておりますので、あとは地域のやる気です。

そこで私は、一つの切り口として「健康」の産業化と言う事を提案したいと思います。留萌の「食」は、北海道の中でもとりわけ多様性に富んだ優れたものであることは、誰でも認めていることでもあります。その食の生産を担っている農業や水産業といった一次産業、そして加工産業の大きな蓄積があります。さらには、食と観光を結びつけようという取り組みも、民を中心にきわめて盛んになっています。それらを活かして、さらに地域資源に新しい付加価値を付けることが出来ないか、という挑戦であります。留萌の「ものづくり」の方向として、関連するサービス産業も含め、目指すべき方向は「健康科学産業」をこの地に興していくことが出来なきか、と言う事を色々な機会に申し上げております。この地域には科学的に評価したい、宝のような魅力的な食材がたくさんあります。例えば、留萌管内産のお米（低タンパクと食味は全国金賞）です。数の子、えびもあります。つまり「健康科学産業」とは、科学技術の力を用い

第28回 1月28日(水) 天候/晴

て地域の素材や食材にさらなる付加価値を付けてブランド力をアップさせる、より機能性を高めた食品づくり、さらには医薬品や化粧品の原料なども含め、新しい産業として育てていこうと言うものであります。そして「ものづくり」に限らず、サービス産業の分野においても、例えば観光に健康という要素をくっ付けると、ヘルスツーリズムという新たなビジネスが生まれる可能性が広がります。留萌の食材をきちっと科学的に評価し、しっかりとしたエビデンスをもとに、健康維持に不可欠な食品を市場に提供する、あるいはそれに関連する産業、ヘルスツーリズムなどをクラスターのように創り上げていくという戦略です。そういう意味で、今、準備が進められている「留萌コホートピア構想」は間違いなくその呼び水となり、大きなビジネスチャンスが広がると確信しています。

ここでもう少しアングルを広げて街づくり戦略をお話します。街全体のデザインを考えると「三本の矢」ではありませんが、三つの駅が支え合う街として考えています。一つには情報の駅。二つ目には健康の駅。三つ目には食の駅です。情報の駅で言えば、皆様は情報の発信が大切である事は十分承知していると思います。これは既に「FMもえる」が担っています。最近ではインターネット上に「るもいFan」がスタートして、全国に向けて大きな発進力になっています。次に健康の駅では、コホート研究と絡め、私どもの支庁の旧萌明荘を活用した健康拠点づくりをこの春からスタートしたいと言う事で市役所が計画しています。道としても全面的に支援して参ります。そして食の駅では、JICなどの若手のまちづくりの皆さんが提案されており、臨海地区とか駅裏あたりに食と観光を切り口にした人を呼び込むためのハード、ソフトの仕掛けを創るという構想があると聞いております。私は大変すばらしいと思っておりますが、これらは別々のものの、バラバラではなく相互に補完しあうようにイメージすると、とてもわかりやすいと思います。まさに三つの駅が相互に支え合うまちづくり。留萌ならではの魅力的な戦略ではないかと思えます。この三つの

駅がまさに企業と市場をつなぎ、生産者と消費者をつなぎ、あるいは市民と観光客をつなぎ、港と商店街をつなぐ結末の役割を果たすのではないかと思います。大いに期待し、出来るだけ応援したいと思えます。

いずれにしても、留萌にはどの地域にも負けないような人的資源も含めて、多彩な資源があります。それを生かすのも殺すのも地域。座してジリ貧になるか、「人の和」によって再生できるか、今が正念場ではないでしょうか。支庁再編の問題もありますけれど、振興局になってもこの地域のために役に立つ仕事をするという、私どもの役割と使命にいささかも変わりはありません。支庁職員はこの地域に生かされている市民の一人として、今後とも留萌の元気づくりのために努力して参ります。

最後に、支庁の取り組みについて少しお話をさせていただきます。資料をお持ちしましたので、目を通していただければわかると思いますが、一つ目が地域重点プロジェクトです。これは道北あるいは留萌の地域で九つのプロジェクトに取り組んでおります。大まかな計画が出来ましたので、今後本格的に具体化させてまいります。二つ目に支庁が独自の予算を持って取り組む「地域政策推進事業」についてです。後々地域自らやっていたらいいような、呼び水の事業です。(タコ箱オーナー制度等) 21年度には5つの事業に取り組むべく準備をしています。三つ目ですが、資料はありませんが、今後支庁の庁舎を市民皆様に一層利用していただくというものです。道民の財産でもありますので大いに活用していただくという趣旨で、業務の邪魔にならない限り、かつ販売行為は除いてオープンな形でお使いいただいて結構です。これまでもやっておりますが、駐車場でイベント、ホールや講堂でのミニコンサート、各種展示、発表会など土日も含めてお気軽にご相談いただきたいと思います。結婚式の会場としても思い出に残る演出が出来ると思います。以上PRもさせて頂きましたが、この辺でお話を閉じたいと思います。本日はありがとうございました。